

東大使からのメッセージ（大使館便り 9月号より）

平成 26 年 9 月 1 日

本格的な夏の暑さもやわらぎ朝夕はめっきり涼しくなってきましたが、皆様におかれましては、御健勝にてご活躍のことと存じます。

「クリスタス農業・海洋大臣訪日」

8月号のメッセージで、「安倍総理ポルトガル訪問のフォローアップ」として、「クリスタス農業・海洋大臣訪日」について9月号で詳細をお伝えする旨お約束しました。

クリスタス農業・海洋大臣は、6月30日から7月2日まで訪日し、安倍総理のポルトガル訪問以降、初めて訪日したポルトガルの閣僚となりました。

私は、クリスタス大臣の帰国後、同大臣から訪日の成果を伺うと共に今後のフォローアップについて意見交換しましたが、同大臣の訪日の感想(及び皆様へのメッセージ)は、概ね次のとおりでしたので御報告致します。

(1) 訪日の成果

ア 今回の訪日は、「安倍総理ポルトガル訪問のフォローアップ」の一環であり、林農林水産大臣、山本海洋政策担当大臣、松島経済産業副大臣をはじめ、ビジネス界、学会といった幅広い関係者と有意義な意見交換ができ、非常に素晴らしい訪日となりました。また、築地市場ではマグロの競りを視察し、ポルトガルで漁獲されたマグロを見ることができ、更に、那須に所在する「カゴメ研究センター」では、ポルトガル産のトマトを使った製品を試食すると共に、ポルトガルに設置予定の同社の「研究センター」について有意義な意見交換ができました。

イ 在京ポルトガル大使公邸にて日本企業を招いたセミナー及びレセプションでは、三菱商事、三井物産といった大商社をはじめ、約30社もの日本企業がポルトガル市場に関心を持っていることがわかり嬉しく思いました。同「セミナー」では同行したピント・デ・アブレウ海洋担当副大臣及びポルトガル貿易投資振興庁(AICEP)から、農産品、水産品に限らずポルトガルへの投資の魅力について紹介したところ、とてもよい感触を得ました。

ウ 関西地域では水産物の養殖研究で有名な近畿大学を訪問し、ポルトガルの大学との間での協力関係構築についての意見交換を行いました。今後、近畿大学とアルガルベ大学との間で魚の養殖に関する共同研究を検討したいと考えています。また、関西地域においても、「養殖漁業組合」と神戸の企業がポルトガルのヒラメやカレイの養殖に関心を持っており、特に、アクアノーバ社(魚の加工会社)との協力について関心を示す企業があったことを、心強く思いました。

エ 安倍総理のポルトガル訪問の際の「共同コミュニケ」の中でも「食品、農産品、畜産品分野での協力の推進」があげられており、まさに時宜を得た訪日となったと考えています。

オ また、安倍総理のポルトガル訪問の際にも確認された「ポルトガル産豚肉の対日輸入が解禁」されましたが、現在、少なくとも3社が豚肉及び加工品の対日輸出に向けて各々の日本側相手企業との商談を進めており、夏から秋にかけてポルトガル産の豚肉が日本に輸出されることを期待しています。

カ 更に、現在ポルトガル側から輸出許可申請をしている「サクランボ」と輸入禁止措置の撤回を求めている「家禽」についても、手続きが進むことを期待しています。

(また、安倍総理のポルトガル訪問の際の「共同コミュニケ」の前文の中で「日本とポルト

ガルにとっての海洋の重要性を想起しつつ、両首脳は、両国をとりまく広大な海域と将来に重要な諸機会をもたらす潜在的可能性に留意した」との記述がありますが、両国が「海洋国家」であることを踏まえ、クリスタス大臣から日本政府及び皆様に概要次のようなメッセージがございました。

(2)「ブルーウィーク（海洋週間）」の開催（2015年6月3日-7日予定）

ポルトガルは「海洋国家」として昨年秋に「国家海洋戦略」を策定しましたが、「Bio Marine ビジネスに関する第3回目の国際会議」を今年10月にリスボン近郊のカスカイスでホストすることとなっており、日本企業等関係者の参加を歓迎致します。

これに続き、来年の6月第1週に「ブルーウィーク」と称して海洋戦略関係の国際会議を開催することを検討しています。同ウィークでは、海洋資源の持続可能な開発等を含む海洋政策全般に関する国際会議（6月4日-5日）、水産資源関連貿易フェア（4日-7日）、閣僚級会合（5日）といった行事を検討しており、日本国政府からの閣僚の参加を歓迎致します。

ポルトガルとしては、来年6月の「ブルーウィーク」を契機に海洋戦略についての国際会議をより一般的なものとしていきたいと考えています。国連においても気候変動や生物多様性等については国際的な会議が定期的開催されていますが、海洋政策一般の国際的会議は開催されていないのが現状です。日本も「海洋国家」であり、こうした会議の実現に向けてアイデアを共有して頂ければ幸甚に存じます。

クリスタス大臣の感想(メッセージ)は、以上ですが、今後の課題としては、今年秋にはポルトラス副首相、来年初めにはパソス・コエリョ首相の訪日が検討されています。特に「安倍総理のポルトガル訪問のフォローアップ」として、ポルトラス副首相が秋に訪日する場合には、同副首相は、ポルトガル産農産品の輸出にも力を入れており、外遊の際にはアグロビジネス企業を含む企業ミッションを同行するのが通例の由です。その後、明年第1四半期には、パソス・コエリョ首相の訪日が検討されており、実現すれば両国間のハイレベルの交流が格段に活発化することになります。今回のクリスタス大臣訪日の成果として、ポルトガル政府首脳によるこれらの訪日の機会に、特に農林水産業、海洋開発関係の分野でも「共同コミュニケ」の具体的実現について皆様方の御支援・御協力を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

「8月の日・ポルトガル間の要人往来・文化交流」

8月には、「衆議院副議長アラブ首長国連邦（UAE）及び欧州諸国親善訪問議員団のポルトガル訪問」や、「大分市の副市長及び市議会議長一行の姉妹都市交流としてのアヴェイロ市訪問」等があり、私も同行しましたが、詳細については、次号で御紹介致します。

いずれの訪問も日・ポルトガル両国関係の促進にとっても極めて有益な訪問であり、結果として安倍総理のポルトガル訪問の良きフォローアップとなったことを御報告致します。（なお、衆議院副議長UAE及び欧州諸国親善訪問議員団のポルトガル訪問については、この「大使館便り」を御参照下さい。）

また、最近の日本の学者、芸術家等がかかわった文化行事で私が出席したものは、以下のとおりですが、これらについても次号以降に順次御紹介致します。

7月26日 ギマラインス市で開催された **FIBER FUTURES** 展オープニング

8月2日 リスボン・トリンダーデ劇場での東京オペラ協会による歌劇「天空の町ー別子銅山と伊庭貞剛」公演(エストリル音楽祭の一環)

9月に入り、夏期休暇も明けますが、皆様におかれましては、ご自愛の上御活躍されますようお祈り申し上げます。